



黒島魂

～しまごころ～

6月は、いのちかがやく強調月間です！

6月1日の「いのちを見つめる日」にさきがけまして、本日、校長講話をいたしました。佐世保市では、この20年間、6月を「いのちを見つめる強調月間」と位置づけ、「いのちは一人に一つだけの何物にも代えられないものであること」「一人一人がかけがえのない大切な存在であること」を、子供たちの心に繰り返し訴えながら心の教育を図ってきました。

今年度からその名称を「いのちかがやく強調月間」に変更されました。子供たちが自分自身のよさを知るとともに友だちのよさを認め、ともに瞳を輝かせながら未来を切り開く力を育んでほしいとの思いが込められていると私は思っています。

佐世保市にとって「いのちを見つめる日」は、子供たちのいのちを守り、輝かせるという決意を新たにする日です。子供たちが多様な人々と関わる中で自分のよさを発揮することは、自分自身を認め、自己肯定感や自己有用感を実感できる瞬間です。黒島小中学校では、子供たち同士はもちろんのこと、地域の方々を含め様々な人々と関わり合う活動をとおして、子供たちの胸の内に、幸せや生きがいを与えていきたいと考えております。

子供の瞳が輝くとき、その子のいのちも輝きます。いのちの輝きを目の当たりにしたとき、人の心は大きく揺さぶられます。これは、人と人との関わりの中でしか得ることのできない、かけがえのない経験です。

6月は道徳公開授業、市中体、芸術鑑賞会(5・6年生)、児童生徒総会、救命講習、平和集会などいのちについて考えたり、心を震わせたりするような活動がたくさん予定されています。保護者の皆様におかれましては、お忙しいと思いますが、6月3日(月)の道徳公開授業に足を運んでいただき、一緒に子供たちといのちについて考えていただければと思います。

校長講話の抜粋

私が小学校に入学して間もないころ私の母親とこんな話を覚えています。

「おかあさん。この間、お友達とあそんでいたら、僕の頭に毛が生えていないところがあるっていうんだ」「確かに触ってみるとつむじとは別に毛が生えていないところがあるのだけどどうしてだか知ってる？」と幼い私は、尋ねました。

そうしたところ、私の母親は、目にいっぱい涙を浮かべながら「ごめんね」といいました。

なんで謝ると聞いたところ、「私がもう少し頑張ることができたら、そうならなかったのに」というのです。くわしく聞いてみると、私の誕生日は3月20日ですが、母のおなかが痛くなり始めたのは、3月16日でした。お母さん一人一人、おなかが痛くなってから赤ちゃんが生まれるまで時間は、ちがうのですが一般的には、初めて赤ちゃんを産むときには、10時間から12時間かかると言われていました。しかし、私はその10倍の100時間以上、私の母は、赤ちゃんを産むための痛みを耐えていました。このままでは、母親の命が危ないと思った医師が私の頭の毛を引っ張ったところやっと出てきたのだと教えてもらいました。

それを聞いた私は、髪の毛が生えていないけどそれによって母親の命が救われたこと、死ぬような思いをして私を生んでくれたことがわかり、とてもうれしくなりました。また、その部分が誇らしく思えてきたのを覚えています。その後、友だちに髪の毛が生えていないことをばかにされてもちっとも悔しくありませんでした。